

第5学年 社会科学学習指導案

に組 男子18名 女子19名 計37名
指導者 上江洲 洋志

1 小单元 わたくしたちのくらしと水産業

2 小单元について

(1) 小单元の位置とねらい

子どもたちは、これまでに、米の生産が国民の食料を確保する重要な役割を果たしており、人々が自然環境や社会的な条件を生かしながら生産を高める工夫や努力をしていること、安心で安全な作物の流通のための工夫や努力をしていることなどをとらえてきている。このような学習を通して子どもたちは、わたしたちの食生活を支える産業への関心が高まりつつある。また、資料を活用して自分で考えたり友だちと話し合ったりしながら課題を追究していくことや、調べたことや考えたことを新聞などにまとめ、発表し合うことに意欲的な子どもが多い。

そこで、本小单元では、水産業が盛んな地域や従事する人々の工夫や努力、運輸との関連を追究する活動を通して、我が国の食料生産の中でも大きな位置を占める水産業の特色や国民の食生活に対する役割についてとらえさせようとするものである。また、写真や絵図、統計などの資料を活用し、我が国の水産業の特色や自分のくらしとの関連について考える力を高め、これからの水産業の発展に関心をもつとともに、我が国の水産業に対する自分のかかわりを考えることができるようにするものである。

このような学習は、食料自給率の低下や輸入量の増加、食料生産従事者の減少や食料生産と環境保全の関係といった我が国の食料生産が抱える課題を調べ、今後の食料生産の在り方を追究する学習へとつながっていくものである。

(2) 指導の基本的な立場

我が国は、南北に数千キロメートルにも及ぶ細い島国であって、それを取り囲む広い海域は、南からの暖流と北からの寒流が合わさる場所に位置しているため、豊富な水産資源に恵まれている。そのため、我が国周辺の海においては、沿岸、沖合いいずれにおいても漁業活動が活発に行われ、長い歴史を通じて、豊富な水産資源は日本人の食生活を支える重要な資源となっている。我が国で水産業に従事する人々は漁獲量を高めるために漁業技術を向上させたり、水産資源の保護に努めたりしてきた。また、交通網や運輸業の発達によって、水産物を新鮮なまま消費者に届けることができるようになった。さらに、養殖漁業や栽培漁業の技術を発達させ、安価で安定した供給を図ることができるようになってきた。しかし、その一方で、環境問題、領土・領海の問題など、我が国の水産業を取り巻く問題は多く、我が国だけでは解決できないものも多い。

そこで、ここでは我が国の水産業の特色や国民の食生活に果たす役割についてより具体的に考えることができるようにするため、水産業の盛んな地域や水産業に従事する人々の工夫や努力、交通網や運輸の働きなどを取り上げていく。特に、「かごしまのさかな」ブランド認定を受けている垂水市のカンパチ養殖漁業をとりあげ、輸送の工夫や費用、交通網について、消費者の願いと関連付けてとらえることができるように、学習内容の重点化を図っていく。

そのために、まず、子どもが好きな寿司ネタと魚の消費量などの資料から、食卓に並ぶ魚介類がどのようにしてとられ、運ばれてくるのかという問題意識をもたせる。次に、学習問題に対する自分なりの予想を基に追究の計画を立てさせ、「水産業が盛んな地域」「従事する人々の工夫、努力」「運輸業との関連」の観点から調べさせる。その際、資料から分かる事実を明らかにし、その意味を考え、話し合う活動や、複数の事象を関連付けて分かることを話し合う活動などを設定することで、水産業が盛んな地域と自然環境とを関連付けてとらえたり、新鮮な魚を届けるための運輸の仕組みと費用、価格との関係をとらえたりするなど、我が国の水産業の特色を具体的にとらえさせていく。さらに、調べたことを新聞にまとめる活動を設定し、水産業に対する見方や考え方を深めさせていく。

ようにする。

このような学習を通して、子どもたちは我が国の食料生産を支える水産業の特色が分かる楽しさを味わいながら、我が国の食料生産への関心や理解を深めたり、地図や資料を活用して追及していく力を高めたりすることになる。

(3) 子どもの実態（調査人数 37 名、質問紙法、重複回答、主な項のみ記述）

この学級の子どもたちの我が国の水産業についての見方や考え方は次のとおりである。

1 水産業へのイメージ	
魚や貝を採る (30)	水に関する仕事 (2)
魚をとる、育てる (2)	魚を売る (3)
2 漁港	
枕崎 (14)	串木野 (2) 垂水 (1) 山川 (1)
焼津 (7)	銚子 (4) 石巻 (1) 八戸 (1)
3 人々の工夫	
漁場の探索 (10)	様々な漁法 (9)
早朝から漁に出る (5)	稚魚の放流、養殖 (4)
4 人々の苦勞	
取量の不安定さ (12)	早朝からの労働 (9)
自然との関係 (6)	水産資源の減少 (6)
5 魚の輸送方法	
トラック輸送 (14)	鉄道 (1) 飛行機 (1)
6 価格の決まり方	
大きさ、重さ (11)	種類 (5) 鮮度 (3)
競りで決まる (10)	
7 資料活用力	
写真 傾向 (22)	傾向と考えられる理由 (4)
グラフや表 量の変化 (29)	
人の話 工夫 (20)	思いや願い (13)

これまでの生活経験の中で見聞きしたことから、枕崎港を主な漁場としてとらえている子どもは多いが、県外の漁港について知っている子どもは少なく、また、漁獲量を高めるための漁場の探索や漁法の工夫についても具体的に理解できていない子どもは少ない。そこで、日本の水産業全体の特色を具体的にとらえさせるために、地図を活用して漁場を地形や潮の流れと関連付けて考えさせたり、魚の種類や性質によって様々な漁場で様々な漁法により漁が行われていることをとらえさせたりしたい。また、水揚げ後の運輸については、トラックによる国内輸送に目を向けている子どもが多い。そこで、トラック輸送と交通網との関係や船輸送、航空輸送など、他の輸送手段についてとりあげていく。価格については魚の大きさや種類によって決められるととらえている子どもが多く、輸送費用と関連付けてとらえることができている子ども

は少ない。そこで、同じ種類の魚であっても場所によって値段が違う理由を考えさせる活動を設定したり、新鮮な魚を各地へ早く届ける仕組みについて調べさせる活動を設定したりすることで、費用と価格との関係をとらえさせたい。

(4) 指導上の留意点

以上のことを踏まえ、指導に当たっては次のようなことに留意したい。

単元の学習過程においては、「水産業が盛んな地域」、「水産業に従事する人々の工夫や努力」、「交通網や運輸の働き」という追究の柱を設定させるとともに、どの学習過程においても根拠を明らかにしながら自分の考えを明確にしたり、友だちと話し合ったりする活動を設定していく。その際、「かごしまのさかな」ブランド認定を受けている垂水市のカンパチ養殖漁業をとりあげ、輸送の工夫や費用、交通網について、消費者の願いと関連付けてとらえることができるようにしていく。

ア まず、子どもたちにとって身近な寿司を取り上げ、私たちの身の回りにどんな水産物があるか話し合わせ、食料生産の中でも水産業が大きな役割を果たしていることに気付かせる。また、多くの種類の魚を食べていることから、水産物がどのようにして生産、輸送され、私たちの食卓に並ぶのかという問題意識をもたせ、学習問題を設定させる。そして、我が国の水産業の特色について追究の柱に沿って予想させ、具体的な追究計画を立てさせる。そうすることで、自分なりの考えをもって学習を展開していく喜びや楽しさを味わえるようにしていきたい。

イ 我が国の水産業の特色を明らかにするために、主な水産物の漁獲量や主な漁場、漁法、自然環境や社会的な条件を生かした生産、交通網や運輸の働きを具体的に調べられるようにする。そのためにまず、おもな漁港の分布図を基に、水産業の盛んな地域が全国に点在しており、それは、自然環境と大きなかわりがあることをとらえさせる。次に、様々な漁法を示した資料を提示し、「とる漁業」の特色をとらえさせる。さらに、「育てる漁業」を取り上げ、とる漁業と比較しながら自然環境に配慮しているという特色をとらえさせていく。そして、垂水で育てられたカンパチが国内外に出荷されていることから、水揚げされた魚の輸送の工夫や費用、交通網について、消費者の願いと関連付けてとらえさせていく。

ウ 追究した結果、自分なりに分かった我が国の水産業の特色を、自分の予想と比較して振り返り、

新聞形式にまとめさせる。その際、追究して分かった従事者の願いや我が国の水産業が抱える課題を踏まえ、これからの水産業の在り方について考えたことを書かせることで、我が国の食料生産に対する見方や考え方を深めさせていきたい。

3 目標

- (1) 我が国の水産業の特色について関心を持ち、これまでの学習や生活を振り返りながら取り組むことができる。
- (2) 我が国の水産業について、水産業の盛んな地域や従事する人々の工夫や努力、運輸・貿易などについて調べ、水産業とわたしたちの暮らし、水産業と自然環境や外国とのかかわりとを関連付けながら、我が国の水産業の特色を考え、それを適切に表現することができる。
- (3) 自分の調べたことを明確にしていくために、我が国の水産業の特色について分かったことを構造的に図に表したり、新聞にまとめたりすることができる。
- (4) 我が国の水産業に従事している人々が生産を高め、消費者の需要に応えるために漁業技術や漁場の保全などの工夫や努力をしていることをとらえ、その働きが国民の食生活を支える水産業の安定や向上という重要な役割を果たしていることに気付くことができる。

4 指導計画 (全 10 時間)

学習過程	学習活動	学び合う喜びや楽しさの深まり	教師の具体的な働きかけ
つかむ・立てる ① 調べる ④ ⑤ まとめる・生かす	1 寿司ネタと魚の消費量、価格を基に気付いたことや疑問に思ったことから学習問題を設定する。 水産業に従事する人々は、どのようにして魚介類をとっているのだろうか。	たくさんの種類の魚がいるな 色々な食べ方をしているな。	㊟ 写真 (寿司, 身近な海産物) ○ 魚の消費量の多さをとらえさせるために寿司ネタや自分たちが食べている食事を調べさせ、魚が大きな役割を占めており、様々な種類や価格の違いに気付かせる。
	2 学習問題について予想し、調べる内容や方法について計画を立てる。 [調べる内容: 追究の柱] ○ 主な生産地 (遠洋, 沖合, 沿岸) ○ 水産業に従事する人々の工夫や努力 ○ 価格や費用, 交通網との関係 [調べる方法] 教科書, 資料集, インターネット資料など	日本の水産業の様子はどうなっているのだろうか。 大きな魚も小さな魚もとる場所やとり方は同じなのかな。	㊟ 写真 (一本釣り, 巻き網漁) ○ 「とり方に工夫があるのではないか。」という疑問をもたせるために、一本釣りと巻き網漁を比較させて話し合わせる。
	3 水産業の盛んな地域を調べる。 4 とる漁業に従事する人々の工夫や努力について調べる。 とる漁業に従事する人々の工夫や努力と課題	魚に合わせた漁法で取っているのだな。 漁場は潮の流れと関係があるのだな。 生産を高めるために、海外にも出かけて行ってとっているのだな。 とる漁業は減っているけど、育てる漁業が増えているな。	㊟ 日本地図 (国内の主な漁港) ○ とる漁業が、自然条件とかかわりがあることをとらえさせるために漁港によって水揚げ高やとれる魚の種類がちがうことに気付かせ、地形や海流と関連付けて魚が多くとれる理由を話し合わせる。 ㊟ 世界地図 (200 海里漁業水域) ○ 漁獲量や様々な種類の魚を確保するための努力をしていることをとらえさせるために、漁業を行っている海洋を調べさせる。
	5 育てる漁業と人々の工夫や努力について調べる。 育てる漁業に従事する人々の工夫や努力	養殖漁業は自然環境を生かしているのだな。 栽培漁業は水産資源を守るのだな。 おいしいカンパチを育てるために、餌や環境に気を付けているのだな。	㊟ 写真 (カンパチの養殖) ○ カンパチ養殖が自然環境や社会的条件を生かして行われていることをとらえさせるために漁港周辺の写真を提示し、地形や国道の存在に着目させる。 ㊟ 写真 (釣り人への呼びかけの看板) ○ 稚魚を海に放流し、その中で育てるという栽培漁業の特色について考えさせるために、看板で幼魚はとらないよう呼びかけている理由を考えさせる。
	6 養殖業に関する価格や費用, 交通網について調べる。(本時) 運輸の働きと価格との関連	消費者の願いにこたえるために、多くの地域に新鮮なまま運んでいるのだな。 新鮮に、早く運ぶための工夫には費用がかかるから、場所によって価格が違っているのだな。 我が国の水産業には、どんな特色があると言えるかな。	㊟ 日本地図 ○ 運輸にかかる費用と各地の価格の違いが場所によって違うことに気付かせるために、輸送距離などと各地の価格を関連付けて考えさせる。 ○ 学習問題と自分の予想とを比較させ、日本の水産業の特色についてまとめさせる。 ○ 水産業を守り、育てていくために大切なことや私たちにできることを考えさせる。
	7 これまでの学習をまとめる。 水産業に従事する人々は技術を高め、自然に配慮して魚をとる工夫や新鮮な魚を届けるための工夫をしている。	わたしたちの食生活にとって大切な水産業を守り、育てていくためにはどんなことが大切かな。	
	8 調べたことを基に新聞を書く。		

5 本 時 (5 / 10)

(1) 目 標

ア 養殖カンパチを新鮮に早く消費地に運ぶ工夫や費用、交通網について消費者の願いと関連付けながら資料を活用して意欲的に追究することができる。

イ 魚の価格が消費地によって異なる理由を調べ、話し合う活動を通して、魚の価格には消費地に運ぶ費用が含まれていることを、新鮮さを保ったまま運ぶ工夫、輸送距離や輸送方法と関連付けてとらえることができる。

(2) 本時の展開に当たって

本時の展開に当たっては、運輸の費用や利益が養殖カンパチの価格と関係していることをとらえさせるために、新鮮さを保ったまま早く運ぶ工夫、輸送距離や輸送方法と費用とを関連付けながら、とらえさせるようにしていく。

(3) 実 際

学習過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
の 追 究 問 題 の 具 体 化	1 本時における追究問題を確認し、具体化する。 なぜ、同じカンパチでも価格が違うのだろうか。	(分) 10	◎ 絵図 (鹿児島県のスーパーと他の地域のスーパーのカンパチの価格) ○ 「同じ魚なのに、なぜ価格が違うのだろうか。」という問いをもたせるために、価格を比較させながら話し合わせる。 ○ 本時の学習の進め方を明確にし、見通しをもった追究ができるようにするために、前時で学習した育てる漁業を振り返らせながら追究させるようにする。
	2 学習の進め方について話し合う。 ・ 一人調べ→グループでの話し合い→全体での話し合い ・ 資料→教科書、資料集、自分の考えの根拠となるもの、グループのまとめ		
追 究 計 画	3 運ぶ工夫と費用、価格の関係について話し合う。 (1) 運ぶ工夫について話し合う。 (2) 運輸工夫にかかわる費用やそれに従事する人々の利益と価格との関係について話し合う。	30	◎ 写真(カンパチの出荷の様子や冷蔵設備) ○ 様々な出荷方法があり、鮮度を保つ工夫があることをとらえさせるために、いけすを積んだトラックや冷蔵設備に着目させて、消費者の願いとの関連を話し合わせる。 ◎ 日本地図、写真(活魚船) ○ 高速道路が全国各地とつながっていることに気付かせるために、鹿児島県と主な消費地を指でなぞらせる。また、トラック以外の輸送方法があることに気付かせるために活魚船での輸送方法から、さらに新鮮に運ぶ工夫について話し合わせる。 ○ 輸送距離が価格とかかわりがあることをとらえさせるために、鹿児島と他の地域のかかる費用について輸送距離や輸送時間の違いに着目させて話し合わせる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 運ぶ工夫と価格 </div>		
追 究 問 題 の 究 明	4 本時の学習についてまとめる。 価格には、新鮮に早く運ぶための費用やその仕事にかかわる人たちの利益が含まれているからである。	5	◎ 空輸したカンパチの価格 ○ 輸送方法が価格とかかわりがあることをとらえさせるために、空輸されたカンパチの値段を提示し、その理由を話し合わせる。 ○ 価格には、利益が含まれていることをとらえさせるために、ここまでの学習を基に魚一匹の価格の内訳を考えさせ、養殖や運輸にかかわる費用の他に何があるか話し合わせる。 ○ 調べたことを基に、地域によってカンパチの価格が異なる理由を説明するまとめをさせる。
	5 次時の学習について話し合う。 ○ 我が国の水産業の特色についてまとめる。		
ま と め			